

◆ 今ここで頑張っています ◆



生きるために必要な化粧品を求めて

資生堂リサーチセンター 武岡 永里子 (新制40回)

高分子化学研究室（土田研）を修了後、現在勤務している株式会社資生堂のリサーチセンターに入社して丁度20年になる。当社では勤続10年毎にリフレッシュ休暇という制度があり、20年目にあたる今年は15日間の連続休暇を取得した。この休暇のお陰で小学3年生になる息子にも初めての海外旅行を経験させることができた。学童の延長保育がわりに通っているスイミングスクールで水泳に励んでいる息子は、日頃の成果を活かしたシュノーケルで熱帯魚の観察などもでき大満足であった。

2年程前より学術室という部署に所属している。ここで恥ずかしながら改めて、化粧品、特にスキンケア製品が、美しさや若さを保つ機能だけでなく、「基本は肌を健やかに保つ役割をもつこと」を再認識させられた。

アレルギーマーチの根源となる乳幼児期のアトピー性皮膚炎の発症予防や、改善した症状の維持にも、スキンケアが有用であることが、専門の皮膚科学会では常識となりつつある。当社では昨年、アトピー性皮膚炎の乳幼児でも使うことができる安全性の高い子ども向けのスキンケア製品を発売したが、このプルーフデータとなる臨床研究や学術広報活動なども行っている。

子どものアトピー性皮膚炎は、悪化するとその後の食物アレルギーや喘息等のアレルギー疾患を誘引するとも言われており、子育てをする母親にとって深刻な問題となるケースも多い。特に乳幼児期の肌は、大人と比べて未熟で乾燥しやすいため、赤ちゃんの頃からきちんとスキンケアをしてあげて、よい肌のバリア状態を保ってあげることが大事である。

息子の肌も幼児の一時期に乾燥でひどい状態となったことがあった。その当時、子供にもスキンケアが必要であることを認識していなかつ

たためだ。より多くの子育て中の保護者の方に、「赤ちゃんからのスキンケア」が大切なことを広めていくことで、アレルギー等に悩む保護者や子供を少しでも減らしていきたい。

入社以来、化粧品開発の根幹を成す薬剤と基剤開発の双方に従事してきたが、「肌を健やかに保つものとしての化粧品」の意義を考え続けなければならない現部署を経験できたことで、化粧品のあるべき役割を広く俯瞰できるようになったと思っている。基礎から現場に近いところまで、異なる研究・開発段階を経験し、時には道半ばで開発を断念せざるを得なかったり、話題となる商品につなげたりと、様々な体験をしてきたことが、キャリアの幅を広げ人間力を強くすることにつながっていると思う。

現部署は医療機関と直接係わる部署であり、昨年の大震災の折には、被災地の病院へスキンケア製品を送ってほしいとの依頼をいち早く受け対応した。その際に病院関係者よりいただいた「スキンケアは生きるために必要なものであると初めて知った」という言葉は、私の座右の銘となっている。我々も心して化粧品、スキンケア製品の開発を行っていかねばならないことを肝に銘じさせられた。

最後に、当社では自然科学分野の研究に従事する女性研究者を対象とした「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」という研究助成を行っており、当学術室はその事務局でもある。本グラントの受賞をきっかけに躍進された研究者の方も多いたときく。本年度の応募期間は11月7日までであるが、研究分野を切り拓く意欲のある女性研究者の方々には、是非ともご応募いただきたいと願っている。